

豊川海軍工廠平和公園



豊川海軍工廠平和公園は、戦争の悲惨さと平和の尊さを伝えることを目的として、かつて豊川海軍工廠の火工部があった場所に整備されました。公園内には、豊川海軍工廠の建物や防空壕などの当時を偲ぶ遺構や、海軍工廠の歴史などを学ぶ平和交流館があります。

〒442-0061 愛知県豊川市穂ノ原三丁目13-2
 TEL/FAX:0533-95-3069
 開園時間/午前9時～午後5時
 休園日/火曜日(祝日の場合は開園)
 年末年始(12月29日～1月3日)
 入園料/無料 駐車場/約60台

公園内の遺構



旧第一火薬庫 豊川市指定史跡

豊川海軍工廠の当時の建物で、火薬を保管した施設です。建物の構造体に土をかぶせているため、小山のような外観となっています。



旧第三信管置場 豊川市指定史跡

豊川海軍工廠の当時の建物で、信管(弾丸の起爆装置)を保管した施設です。爆発事故が起きた際に周囲に被害が及ばないように、建物の周囲を土塁で囲んでいます。

旧第一火薬庫と旧第三信管置場の内部は、文化財保護のため常時公開していませんが、定時に行っているボランティアガイドの案内により見学することができます。ご希望の方は平和交流館受付にお申込みください。

豊川市平和交流館



豊川海軍工廠の歴史などの解説、豊川海軍工廠語り継ぎボランティアによる園内ガイド(無料)を行っています。

編集・発行
 豊川市教育委員会生涯学習課
 〒441-0292 愛知県豊川市赤坂町松本250番地
 TEL:0533-88-8035 FAX:0533-88-8038

豊川海軍工廠跡地マップ



供養塔



平和の像

地図や空中写真で豊川市の中心部を見ると、工場跡地は工業団地や陸上自衛隊駐屯地など、周囲とは不自然な地割として浮かび上がり、大地に刻まれたその存在は、いつまでも私たちに忘れてはならない過去の歴史を語りかけてきます。また工場正門から豊橋駅を結ぶ県道400号(通称南大通)や名鉄豊川線は工場建設を契機に設けられ、市役所周辺の諏訪地区は工場の街として形作られるなど、海軍工場の存在は今の豊川市の街の姿に大きな影響を与えています。そして何気ない街の風景の中にも、工場の名残があります。



穂ノ原三丁目交差点
(かつての工場北門)

西門橋交差点
(かつての工場西門)

東門橋交差点
(かつての工場東門)

旧線路ゲート門柱

西豊川駅跡

機銃部図書

光学部研磨工場

桜ヶ丘ミュージアム
豊川市を中心とする郷土の歴史に関する資料や美術品の展示をしています。常設展示には豊川海軍工場に関する展示があります。

熊谷組供養塔

15 本宮山選拝所跡

8 海軍境界杭

8 海軍境界杭



豊川海軍工廠の名残

5 正門(現日本車輛製造株豊川製作所内)

工廠の正門は、今も日本車輛製造株豊川製作所の門として修復し使用されています。



6 ケヤキ並木

正門から南に延びる道路の両側にあるケヤキ並木は、工廠開廠記念に植樹されたのが始まりです。この付近は空襲で大きな被害を受けた場所ですが、空襲を耐え今も残るケヤキは、豊川市の戦後復興のシンボルとも言えます。



7 桜トンネル

豊川公園や市役所周辺の通称桜トンネルは、工廠時代に植樹されたのが始まりです。現在植え替えが進んでいますが、春先には花見の名所として多くの人を訪れます。



8 海軍境界杭

工廠の敷地境に設置されたと考えられる境界杭が、工廠南側の2箇所に残っています。また、工廠から約6km東にある工廠用水道の水源であった大和水源地(豊津町)にも同じ境界杭があり、「海軍用地」と刻まれています。



▲大和水源地(豊津町大和地内)の境界杭

9 名古屋鉄道豊川線

名古屋鉄道豊川線は、名古屋方面からの工具輸送のため、昭和20(1945)年1月に国府一市役所前(現諏訪町)が開通したのが始まりです。



10 佐奈川

かつての佐奈川は蛇行する流路でたびたび氾濫したため、工廠建設を契機として現在の直線的な流路に改修が進められ、戦後の昭和28(1953)年まで工事が続けられました。花見の名所でもある佐奈川堤の桜は工事終了後に植樹されたものです。



11 工廠引込み線(現日本車輛製造株豊川製作所の引込み線)、佐奈川橋梁、旧線路ゲート門柱

工廠引込み線は、豊川鉄道(飯田線の前身私鉄会社)が工具や物資の輸送のため飯田線から分岐して敷設したもので、昭和17(1942)年5月に営業が始められました。線路敷が広がっている現在の桜木公園回りにはかつて西豊川駅(昭和31(1956)年廃止)があり、佐奈川に架かる橋梁は当時建設されたものです。佐奈川橋梁から200m西には、旧線路ゲートの門柱が線路の北側と自衛隊敷地内の2箇所に残っており、さらにここから西に300m辺りで現在の線路は南西に折れますが、工廠当時はそのまま東門(北東門)手前に設けられた乗降場まで延びていました。



▲佐奈川橋梁

12 土塁と排水路

工廠の敷地縁には土塁がめぐり、その外側には排水路が掘られていました。工廠はこの土塁と排水路などで周囲と画されており、工廠への出入りは正門・西門・北門・東門(北東門)などに限られていました。



▲豊川海軍工廠平和公園北辺の土塁と排水路

13 諏訪川・代田川

工廠からの排水は工廠敷地縁の排水路に落とされ、工廠南西で諏訪川と代田川に接続し佐奈川と白川に排水されました。諏訪川と代田川は工廠の排水路として設けられたものです。



▲諏訪川と代田川の分岐点

昭和20年8月7日の空襲の痕跡

3 長栄寺の西国三十三観音

長栄寺には、空襲の被害を受けながらも残存した西国三十三観音の石仏があります。



14 諏訪神社の狛犬

諏訪神社境内には、空襲の被害を受けながらも残存した狛犬と台座があります。



15 本宮山遥拝所跡にあった砥鹿神社西参道石鳥居

諏訪神社参道入口西側の「本宮山遥拝所」の石碑が建っている場所には、かつて本宮山遥拝所の石鳥居があり、空襲では部材が欠損するなどの被害がありました。その石鳥居は昭和31(1956)年に砥鹿神社西参道に移築されていますが、被弾痕が多く残っており、今なお空襲の痕跡を見ることができます。



▲本宮山遥拝所跡にあった石鳥居の姿(戦後撮影)。鳥居の向こうには本宮山が見える。(資料提供:砥鹿神社)



▲砥鹿神社に移築された石鳥居の現在の姿。

豊川海軍工廠は、海軍が使用する機銃とその弾丸を主な生産品とした軍需工場で、かつて東洋一の兵器工場とも称されました。昭和14(1939)年12月15日に開廠し、最盛期には5万人を超える人々が働き、工廠周辺には従業員宿舎などの関連施設やインフラが整備され、のどかな農村地帯は短期間のうちに軍需工場都市へと変貌していきました。昭和18(1943)年には工廠の設置により結びつきの強まった3町1村が合併して豊川市が誕生し、その後も工廠の存在は豊川市のあり方に大きな影響を与えました。しかし昭和20(1945)年8月7日、豊川海軍工廠はアメリカ軍による空襲で壊滅的な被害を受け、2,500人以上の犠牲者を出すなど、この地に悲しい歴史を刻むこととなりました。

この空襲で壊滅的な被害を受けた豊川海軍工廠ですが、空襲の被害を免れた施設も少なからず存在しました。戦後、これらの施設や周辺に残された工廠関連施設などは再利用され、工廠跡地には工場誘致が進むなど、海軍工廠の遺産は豊川市の復興の礎ともなりました。

工廠跡地やその周辺には当時の建物などの遺構、戦後建立された空襲犠牲者の慰霊碑、空襲の痕跡を刻むモノが各所に残されています。これらの遺構は、今を生きる私たちに戦争の悲惨さと平和の尊さを教えてくれます。



工廠跡地の再利用

工廠跡地の再利用は、昭和21(1946)年の国鉄浜松工機部豊川分工場(現日本車輛製造(株)豊川製作所)に始まり、その後、名古屋大学の空電研究所(現名古屋大学豊川フィールド)や、警察予備隊豊川駐屯部隊(現陸上自衛隊豊川駐屯地)が創設されました。昭和30年代には民間工場が進出して工場地帯化が進み、その中には今も当時の施設を使用しているものもあります。

▲名古屋大学豊川フィールド内に残る旧工廠施設(旧原料置場)

工廠北西部の現名古屋大学豊川フィールドには、戦後に同大学の空電研究所が設けられ、空襲被害を免れた工廠施設が再利用されました。今も当時の建物などの遺構が残されており、旧原料置場は外壁のセメントがはがれるなど、空襲の痕跡をよくとどめています。

工員寄宿舍や官舎、海軍共済病院などの関連施設があった工廠の南に面する姫街道(県道5号)との間の土地は、戦後、市役所や体育館、警察署、陸上競技場、野球場などの公共施設に再利用され、工員寄宿舍や軍関連施設の跡地は代田中学校、代田小学校、金屋中学校、金屋小学校、中部小学校、豊川工科高校、豊川高校に再利用されるなど、戦後、工廠の遺産をいかして豊川市の復興・まちづくりは進められました。また、名古屋や岡崎の都市空襲により校舎をなくした学校の臨時校舎として工員寄宿舍が利用された時期もあり、文化会館敷地内には岡崎高等師範学校と名大附属中・高等学校の碑があり当時が偲べれます。



▲岡崎高等師範学校跡の碑(文化会館敷地内)

戦後建てられた空襲犠牲者への慰霊の思い

1 供養塔

豊川稲荷の西にある供養塔は、空襲で犠牲となった工廠従事者らを慰霊するため昭和21(1946)年に建立されたもので、台座には犠牲者の名前が刻まれています。



2 平和の像



石川県出身の女子挺身隊犠牲者を慰霊する殉難おとめの像(昭和37(1962)年建立、金沢市)の建立関係者の提唱により、豊川市にも二度と戦争を起さないシンボルとして多くの方の浄財により建立されたものです。制作者は殉難おとめの像と同じ矩幸成(かねこうせい)氏(金沢美術工芸大学教授)で、昭和40(1965)年8月7日に建立されました。

3 長栄寺 器材部鑄造工場慰霊碑

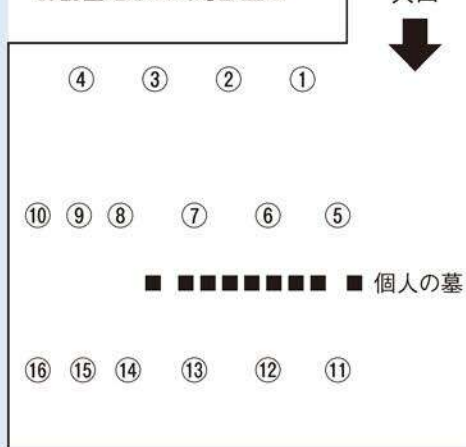
昭和26(1951)年8月7日に器材部鑄造工場の生存者らによって建立されたもので、同工場の犠牲者の氏名などが刻まれています。



4 諏訪墓地

諏訪墓地は豊川海軍工廠の第二工員養成所があった場所であり、遺族や各職域、学徒動員にかかわる学校などが建立した多くの慰霊碑などがあります。

諏訪墓地慰霊碑等配置図



- ①「供養塔」会計部機銃材料係戦没者
- ②「豊川工廠会計部罹災者之碑」会計部火材料係指材料係戦没者
- ③「(17名の戒名)」会計部計算課総会医材料係戦没者
- ④「元豊川海軍工廠会計部物資部戦没者五十三柱之霊」
会計部物資部戦没者
- ⑤「供養塔」戦没者
- ⑥「元豊川海軍工廠総務部電気工場戦没者之墓」
総務部電気工場戦没者
- ⑦「早稲田大学戦没者学生之碑」早稲田大学戦没学生
- ⑧「供養塔」殉難者
- ⑨「松操殉難者之墓」松操学園殉難者
- ⑩「供養の碑」松操学園殉難者
- ⑪「友魂之碑」工員養成所戦没者
- ⑫「慰霊碑」愛知高等実修女学校生徒並びに卒業生の戦没者
- ⑬「元豊川海軍工廠総務部戦没者六十柱之霊塔」
総務部戦没者(新城高等女学校及び豊橋家政女学校生徒を含む)
- ⑭「立命館大学戦没学生慰霊碑」
相原和男 石川巖 津野森正 本田義次
- ⑮「慰霊碑」豊橋松操高等女学校生徒並びに卒業生、職員
- ⑯「豊商健児之碑」豊橋市立商業学校戦没学徒